

## 連画：絵のリレー 国際交流セッション 活動報告

暁学園 暁小学校 水谷浩三



実施日：2003年6月27日 PM3:00～4:00

形態：パソコンクラブ 7名

方法：

- (1) 連画のWebサイトで、連画のイメージをつかみ、これまでの作品を味わいました。
- (2) 種絵からのリンクは既に終了していたので、教師の判断として種絵に近いイメージのリンクからつないでいくことにしました。
- (3) 種絵のもつイメージの広がり、情報から、暁小の子どもたちがどのような発想をしていくか試してみたかったからです。
- (4) また、自分がつなぎたい絵を、自分で決めるのではなく、教師が(2)で決定した絵から全員がつなぐことにしました。
- (5) 同じ絵からどのような発想の違いが見られるかを、子どもたち同士で、また教師の目から見て比較する中で、それぞれの作品を味わい、発想や情報の選択・加工といった力を育みたいと考えたからです。
- (6) 元絵の宇宙空間的な部分に興味をもった子ども4名(男子) 惑星の部分宇宙船に加工したり、宇宙船を画面に付加した作品など、男子児童の発想として自然な発想であろうか・・・意識が外へ外へと向いている傾向を感じました。
- (7) またその4枚の宇宙空間へイメージを広げた作品のうち2枚は、これまでに学んだ Adobe Photoshop Elements のエフェクト機能を活用した新たな惑星のイメージの付加もあり、デジタルデザインならではの工夫が考えられたことを評価したい。
- (8) 元絵の中心の惑星部分に着目した子ども2名(女子) 男子との比較において惑星という中心・内部へ意識が向いていました。
- (9) 一人(女子) 元絵の太陽と月を犬の目だまにアレンジした作品は、発想の転換の面白さが他の子どもとは違っていました。

反省として、クラブ時間の確保が難しく、どうしてもそのように発想したかといった自己評価や話し合いが持てず、詳しく子どもの内面に迫れなかった。海外との比較という国際セッションのメリットを活用できなかった。